

平成 22 年 5 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社テクノシステムズ
 代表者名 代表取締役 林 正幸
 (コード番号・2456)
 問合せ先
 役職・氏名 常務取締役 谷口 光
 電 話 046-278-3650

特別損失の発生及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 22 年 3 月期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）において、下記のとおり特別損失が発生いたしましたのでお知らせするとともに、平成 22 年 2 月 15 日に開示しました平成 22 年 3 月期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）の通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

- (1) 人員削減のための退職一時金 11,012 千円
- (2) 貸倒引当金繰入（損害賠償請求裁判の長期化のため、請求額の 50%を繰入など）5,751 千円

2. 当期の業績予想数値の修正（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日） (単位：千円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	630,000	△20,000	△20,000
今 回 修 正 予 想 (B)	537,845	△33,363	△54,491
増 減 額 (B - A)	△92,155	△13,363	△34,491
増 減 率 (%)	△14.6	-	-
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	720,596	11,598	827

3. 修正の理由

当期は、景気低迷の影響を受け主力となっているテクニカルスタッフ事業及び受託開発事業での受注減により、売上及び利益の減少が見込まれていましたが、派遣作業重要減少が続くなかで、作業量減少に伴う待機者の増加による固定費等が経費を圧迫することになり、大幅な人員削減を余儀なくされ、約 50 名のリストラを実施しました。これにより売上、利益の減少とともに退職一時金として約 11 百万円の一時的な経費の負担（特別損失）が重なりました。当期後半は、より技術レベルが高い技術者の採用や専任者による技術教育の効果により、新規請負作業を受注できるようになりました。また、

幼児教育事業において、平成 21 年 4 月に湘南保育園を組入れ、また同年 12 月に第 2 湘南保育園を開設したことにより前年度比 127.3%の売上が増加し、自社ブランド製品事業において新製品の効果により売上が前年度比 260.3%伸び、当期から始めた不動産賃貸事業も売上、利益に寄与していますが、これらを合わせても全体を補うまでには至りませんでした。また、来期以降に向けた新製品の開発、販売への投資を行っており、これも当期の経費負担が増えた要因になりました。具体的には、次世代製品開発のため早稲田大学工学部との共同研究着手、販売体制強化のための専任者の採用、健康関係事業立ち上げのために海外製品の国内独占販売契約の締結などを実施しました。経費削減のため人員の削減の他、役員報酬の削減、当期後半の社員全体の給与 5%削減などの対策をとりましたが、一方で2年以上に長期化している損害賠償請求の裁判の請求額の半分などの未収金を当期で特別損失としました。この結果、当期純損失は 54,491 千円となりました。

以 上